

特集

- ・ ケント紙、尾瀬の木道エコペーパーキャンペーン中！
- ・ メーカー探訪
～ 富士共和製紙株

ケント紙・尾瀬の木道紙キャンペーン中！

朝晩に吹く風もすっかり秋めいて、夏は既に記憶のかなた、季節の変わり目に流行り病と、健康管理に気をつけたい今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。

秋といえば勉強の秋、食欲の秋、スポーツの秋と色々ありますが、そんななか、このたびランナーズ・ニーになりました。

名前の通り、走る人に現れる症状で、膝の外側が痛くなるというものですが、全く身に覚えがありません。しかし、長距離を歩いたり重いものを長い時間持っていたりすると痛くなるという状態が続いたので、一度医師に相談してみました。結果、ランナーズ・ニーと診断されました。

膝の外側にある「腸頸靭帯(ちょうけいじんたい)」がすり合うことで靭帯が炎症を起こし、違和感や痛みを起こすようです。普段痛みのないときは歩くなどしても問題ないのですが、いったん痛み出すと、痛みがとれるまで休んでいないと痛み続けます。



ウォーミングアップをしっかりとしないことが一番の原因のようです。何のトレーニングを行うにしても、しっかりとした準備運動が必要だということでしょう。急な練習メニューの増加も要因になるようです。さらに解剖学的にO脚の人はランナーズ・ニーになりやすいようです。

症状が初期段階であれば、安静にして、アイシングなどを行うだけで治療に期待できます。医師の相談なしにマッサージをしてしまうのは逆効果になりやすいので止めましょう。

私も少しO脚で、意識してみると、歩くとき足の外側に体重を掛けていました。現在は、いきなりは難しいですが、なるべく足の中心で歩くように気をつけています。

ゴルフをしていても終盤になると痛み出し、足を引きずって歩くような感じになってしまいましたが、しっかりと治療して、気持ちよく運動できるようになりたいです。

ところで弊社では現在「ケント紙」「尾瀬の木道エコペーパー」キャンペーンを開催中です。こちらは10月一杯、秋が終わるまで続きますので、是非皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

(K)



スギウラ株式会社
営業部 営業一課
〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業一課
027-361-5734

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

お気付きの点や質問、
疑問などありましたら、
ご遠慮なく営業または、
下記までお問合せくだ
さい。

お問合せ
メールアドレス
sg-arai-yoshio
@kamisugiura.co.jp

メーカー探訪 ～富士共和製紙(株)

先日、静岡県富士市にある富士共和製紙(株)の工場見学に行きました。

同社は昭和5年に創業し来年80周年を迎える、なかなか歴史のある会社です。

現在は4台の抄紙機とキャストマシンやコーターがそれぞれ1台あり、抄紙1号機は機械入れ替え中で基礎工事の最中でした。抄紙機を設置するときは基礎工事から入ります。地面にそのまま据え付けると、建物は二階建ての高さを要するので、そんなに高さを設けられないときは地面を5mくらい掘ります。

ここで紙が出来るまでの流れを簡単に説明します。まず原料となるパルプを用意します。自社で用意するところもありますが、小規模な製紙会社は、国内は北海道・東北・中部地方あたりから、海外なら米・加・ブラジル・東南亜・豪州あたりから購入します。そしてパルプを水と混ぜ、パルパー、レファイナーという機械でよくほぐします。(ビジュアルイメージは洗濯機)。そのあと染料や薬品を混ぜ、ゴミを取りその液を網に乗せて(ここでは水分が約99%)水を切り、水分約50%までにします。このあと毛布でプレスして水をさらに絞り、ドライヤーパートで、熱せられたドラムに巻かれることにより乾かします。水分が8%くらいまでになったら、カレンダー機で平滑にしたり、艶をつけたりし、最後にカッターで巻取りや平判に仕立てて完成です。

この富士共和製紙、何で有名かというと、以前弊社のキャンペーンで

も取り扱った「ケンラン」を作っているメーカーです。ケンランはその高い平滑性、多彩な色数、丈夫なコシで人気のある色カードです。またキャストマシンを使って「ファンタス」「カラーマリアン」「キュービック」「クニメタル」という、厚い色物特殊紙を作っております。なかでも昨年上梓されたばかりの「ディーブマット」は、ケンランのような厚い紙ですが、表面が艶加工しておらず、羅紗風の風合いが素敵な紙です。全11色、220～450kgまで4斤量と、近年ではあまり見ない豊富な品揃えの新製品で、メーカーのチカラの入れようも分かるうというものです。

ほかには紙ファイル、コースター用紙(最近はコストの関係で0.5mm厚が売れ筋)、トランプ用紙、変わったところではバッテリー用のセパレート用紙なども作ります。厚物専門のメーカーですね。

ところで製紙会社というと、水を大量に使います。そのために水資源の豊富な富士山麓にメーカーが集中するのですが、では沢山といってもどのくらい?・・・答えは、大手メーカーで上質紙やコート紙を作る場合は、紙1tに対し水約100t弱ですが、富士市あたりの中小メーカーでは大体200tの水を使います。富士共和製紙では約8000t/日の量を使うようです。これは水資源の豊富な日本だからこそ出来る芸当で(もともと水の少ない欧州などでは、水の使用量はもっと少ないようです)なかでも富士市は国内生産量の約12%を占める“紙の町”です。

江戸時代より紙の生産が盛んだった富士市(駿河の国)ですが、明治に入り近代的抄紙技術の発展と共に、製紙産業はより栄えました。前述のように水源の豊富さ、木材の調達しやすさ、さらに鉄道等の輸送網の発達にもその要因があります。

現在も大小多数の製紙会社により、私たちの生活に欠かせない、そして彩る“紙”が作られているのだということ、改めて認識させられました。

(A)

